

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度	科目名	舞踊Ⅰ
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	声優・演劇科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2単位			授業形態	実技
教科書/教材	私家版「日本舞踊の成り立ち」「着物の名称・たたみ方」				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	花柳 寿芽月・花柳 寿愛理・花柳 雅江輔			実務経験の有無・職種	有・舞踊家
<b>学習目的</b>					
日本舞踊Ⅰを受講する学生は、日常生活では体現が難しくなった伝統文化に触れる。我々の祖先が残した日本独自の芸能の一つである日本舞踊を実体験することで特に江戸文化の芸術構造や美意識を理解できるようになることを目的とする。又、和服と呼ばれる着物を身にまとう修得により俳優、声優問わず和物の舞台、映像等に活用し自己をアピールする特色の一つを増やす。					
<b>到達目標</b>					
日本舞踊は主として三味線音楽の旋律、情感に身体をのせて表現するものであるので先ず踊る身体作りの基礎の習得を目標とする。次にややパターン化された基本動作を繰り返し練習することで三味線音楽独特の”間-ま-”と云うものを理解し実践する。1年次では基本練習修得の中から踊りの表現の方法を知り、物云う身体（ボディランゲージ）を第一義とし2年次へ進んでいくことを目指す。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	先ず実技を始める前に日本舞踊の成立や古典芸能と呼ばれる日本の文化のあらましを、配布するプリントを参照して講義する。日本舞踊を練習する上で欠かせない着物の着方、又しまい方（たたみ方）等を学び、繰り返し練習することで体にフィットした着物姿を実現してゆく。付随して扇子や手拭いの扱い方を学び、日本舞踊の基礎（メソッド）として花柳園喜輔が考案した「踊り解体新書Ⅰ、Ⅱ」から実践し、身体で何かを表現することを覚える。				
注意点	伝統芸能の修練は「礼に始まり礼に終わる」の格言があるように先ず授業の始まりには御挨拶としておじぎをし授業の終わりにも同じくおじぎをする。これは教わる者、教える者双方の礼儀の一環として感謝の心をもって行う事であり、和文化が大切としている自然への敬意、人と人との和合を計る上で大事なことであるので是非守ってほしい一つである。技芸向上の鍵は稽古あるのみと心得、授業を休まないことが第一で、3/4以上出席しない折は定期試験受験することができない。以上二点を留意の上授業に臨まれ				
評価方法	種別	割合	備 考		
	実技テスト	90%	課題舞踊を試験し、技術、情感等総合的に評価		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度により評価		
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	日本舞踊の概要、授業内容の説明	私家版「日本舞踊の成り立ち」「着物の名称・たたみ方」を用いた講義			
2回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技(1)	三味線音楽を感じる			
3回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技(2)	三味線音楽に合わせて身体を動かす			
4回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技(3)	日本舞踊らしい身体表現を知る			
5回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技(4)	日本舞踊らしい身体表現に挑戦する			
6回	着物の着付け・たたみ方-助手が必要-	和服の構造を知る			
7回	着物の着付け・たたみ方-助手が必要-	和服を着て体感する			
8回	「踊り解体新書Ⅰ&Ⅱ」と扇子の扱い方(1)	新しい三味線音楽に触れ違いを感じる。扇子のマナーと特徴を知る			
9回	「踊り解体新書Ⅰ&Ⅱ」と扇子の扱い方(2)	三味線音楽の違いに合わせた身体表現を考える。扇子について考えて扱う			
10回	「踊り解体新書Ⅰ&Ⅱ」と扇子の扱い方(3)	和服で踊る研究をする。扇子の表現を知る			
11回	「さくら」(1)	女踊りに挑戦する			
12回	「さくら」(2)	女踊りの表現について考える			
13回	「お江戸日本橋」(1)	男踊りに挑戦する			
14回	「お江戸日本橋」(2)	男踊りの表現について考える			
15回	まとめ	「さくら」「お江戸日本橋」のまとめ			